

Nami-Aru? / Internet

「1本目が大事」

文：ジョージ・カックル

もう30年以上前の話だけど、俺がまだ19歳のとき、何年か世界中を旅していたことがあった（サーフボードは持って行かなかったよ。笑）。最初は日本からタイに飛んだ。そこで何日か滞在して、タイカレーと果物をたくさん食べて、SHINGHA ビールをたくさん飲んで、キックボクシングを見て.....それから、インド行きの飛行機に乗った。当時はみんなタイに行ってから、学生証明書を買って（！）、安い航空券を買ったものなんだ。

インドに着いてから、いろんな地域を何ヶ月もかけて旅してから、ヨーロッパに向かった。今になって思うと、アメリカ人としては行きづらい国ばかりだった。パキスタン、アフガニスタン、イラン...。でもそのときはなんにも変に感じることはなかった。今みたいにアメリカ人はまだそれほど嫌われてなかったんだね。世界が変わるのは早いよ。

あの辺の国の人たちはみんな独特な人間性を持っていたんだけど、一つだけ共通点があった。それは値切ること。

なにかを買うとき、どんなものでも、どんな店に入っても、値段を最初に聞かなきゃいけないし、おまけにそれを値切らないと、逆に変に思われるんだ。俺はこれがわりと苦手だった。でも朝イチに行くなら、まだ気分的に楽だった。なぜなら、彼らにとって朝一番のお客に売るとは、とてもいいことらしい。彼らは最初のお客さんが買ってくれると、その一日の商売がうまく行くと信じている。なんか分かるよね。その一日のグループがそこからはじまるんだから。でも、そのときは不思議な習慣だと思っていたんだ。

でも、今そのこと考えると、サーフィンにも近いものがあると思う。サーフィンをする人ならわかると思うけど、1本目は大事だよ。

どんなにいい波でも、どんなに悪い波でも、1本目が大事だ。俺は海に入って波が割れているところまでパドルするとき、波やほかのサーファーを見て、どこに行けば、その日の波が乗りやすいかチェックする。同じポイントでも波は毎日違うもんね、いつも入っているところでも.....。

1本目の波が来たとき、その波に乗れたらその一日のサーフィンはうまくいく。その波が良ければ特にね。でももし、その1本目の波をミスしたり、知らない人にとられたりすると、何かハートに重いものがぶら下がったように落ち込むんだ。こんなときは、続けざまに何本も乗れなかったりする。そうになると、なんでだかわからないけど、控えめになってしまう。落ち込んでいるのかな？ 気を取り直すには早く最初の波を乗らないとダメなのに、なにか知らないけど、乗れないんだ。俺がいるところに、波がうまくこなかったり、パドルしたら波が割れなかったり、乗ったと思ったら、奥からもう人が乗っていたり.....。このゾーンに入ってしまうと、なかなか抜け出せなくなるんだ。

できることはがんばるだけ。俺はこういうときはちょっとインサイドに行って、なんでもいいから乗る。スープでもいいよ。悪魔を吹っ飛ばさないで。そこで、あきらめて上がったちゃダメだよ。頭を切り替えて、一本波を乗るまであがっちゃダメだ。

だけど一本の波に乗ったら、今までの気持ちはなんだったのかと笑えるよ。旅で出会った店の人たちも同じだね。まずは1本目を大事にしよう。